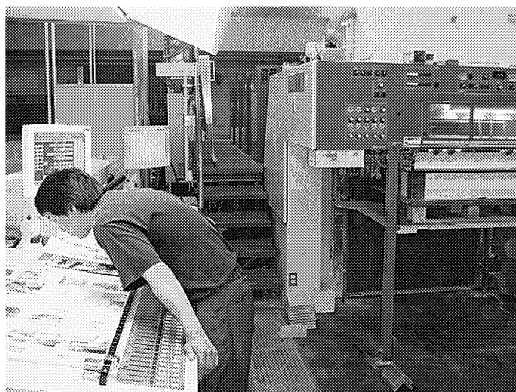


高画質印刷を拡充

カATALOG向け 売上高比率3割に
専用機導入

印刷・出版業の能登印刷（金沢市、能登隆市社長）は、カタログなど商業美術印刷へのシフトを進める。高画質の印刷に力を入れ、インキ使用量を減らす環境対応型機械も導入。インターネット上の商品紹介カタログと印刷を連動するサービスも始める。競争が激しくなる中、三年後に商業美術印刷を売り上げの三割に引き上げる方針。



ハイファイ印刷に注力し競争を避ける（石川県白山市の松任工場）

百七十五個あるが、ハイファイは三百から七百個。同社は主に網点四百個を中心に展開する。三年前から徐々に受注を伸ばしており、石川県白山市の工場に「水なし印刷」の機械を約一千万円かけて導入。関連の印刷ラインも整備した。この方式は有害な廃液となる水を使用しない版材を使い、インキ使用量を二〇%減らせる。

また、ソフト面も強化。ウェブと商業印刷を連動

するサービス「ウェブと連動したマーケティングアシスト」にも取り組む。自社で撮影やウェブ制作も手がける強みを生かし、企業などからまずウェブ上でのカタログ制作を手がける。消費者の反応を探り、売れ筋商品を集めたカタログなどの商業印刷を請け負う。

近年は消費者の好みの多様化などで、カタログ掲載品の入れ替え頻度が高くなっている。ウェブと印刷に比べると同じ掲載品を機動的に印刷に移せる利点があり、同社にとっては機会損失も防げる。能登印刷の単体売上高は〇六年六月期の二十二億八千万円がピーク。カタログなどの商業美術印刷を三年後の一二年六月期には現状の倍近い七億円に伸ばす。売上高も二十三億円に回復させ